

The comparison of the two drugs and sample in details is shown in Table 1.

略字解 (abbreviations)

(List of abbreviations and key to tissue used in this report.)

k: cork cell, hy: hypodermis, cx: cortex, en: endodermis, pr: pericycle,
ph: phloem, t: tracheid, m: pith, st: starch grain

○マデイラカズラが房州に逸出している (久内清孝) Kiyotaka HISAUCHI:
Madeira-vine is found as an alien at Boshu-beach, south of Tokyo

大正の終り頃余は 横浜本牧二の谷, つまり現在の国電磯子線の山手駅と根岸駅との中間の海岸にあった間門 (マカド) 小学校附近の人家の垣と, 鎌倉七里浜の外人住宅の垣根とで, このつる草を採集した。これはアカザカズラ (マデイラカズラ, ツルアカザ), *Boussingaultia gracilis* Miers var. *pseudobaselloides* Bailey というもので, その頃は温室でも栽培され, 帝国ホテルの温室でも見たし, 小石川植物園にもあったものと見え, 松崎直枝氏は園芸大辞典 5 卷 (1956) に署名入りで「東京で充分越冬して地下の塊茎で越冬する云々」とかいている。余は自来これを屋外で見なかったが太平洋側の各地では西九州まで記録されている。しかし, 日本海側からの報がない。そうして相州以東では千葉大の荻庭文寿氏が安房千倉町平館の南で採集 (26.7.1964) している。恐らく現在における東端の記録であろう。この葉はたべられ, 花は緑色で見栄えはしないが芳香がある。結実はしないが塊茎や肉芽ではん殖する。(東邦大学薬学部)

□ **Flora of Eastern Himalaya, (Second Report):** Compiled by H. Hara; 26×18 cm, 393 pp. with 24 plates including 23 colour photos and 61 illus.; University of Tokyo (1971).

東京大学は原寛教授を主班とした東京大学インド植物調査隊を編成して 1960, 63, 67, 69 の 4 回に亘り調査を実行して, その結果を, シッキムヒマラヤの植物 (1963), 東部ヒマラヤの植物写真集 (1968), *The Flora of Eastern Himalaya* (1966) として, すでにそれぞれ発行した。そうして今回本書を東京大学資料館の刊行物 (Bull. No. 2, Univ. Museum, Univ. of Tokyo) として公刊するにいたった。内容はカラー写真 8 を含む図版とその解説記事, 本文中の挿図 61, 種子植物, シダ植物, コケ植物の分類学的エニユメレーション (250 頁) などの他大橋広好氏のヌスピトハギ属 *Dollinera* 亜属のモノグラフ, 原寛氏の東部ヒマラヤのテンナンショウ属考察, 黒沢幸子氏の東部ヒマラヤの植物と近縁関係にある植物の細胞学的研究などであって, アオキ属, トチバニンジン属, ハナイカダ属などの染色体などが明らかにされている。(久内清孝)
〔附記〕 本書は前回の *The Flora of Eastern Himalaya* (1966) と同様の装訂のもので東京大学出版会 (東京都文京区本郷 7-3-1) で販売されている (定価 ¥7,200)。